

幸せの子育ち・親育ち

～あせらず、ゆっくり、一歩いっぽ～



岩倉市子育て親育ち推進会議編

多くの人が見守っています。

困った時は周囲に頼りましょう。

あなたの頑張りはちゃんと伝わっています。



はじめに

「育児は育自」という言葉を聞きます。子育ては自分を育てることでもあるという意味です。子育ての方法は多様であり、これが正解というものがあるわけではありません。育児書を読んだり、ネット上の情報を集めたりしてその通りに実行してもなかなかうまくはいきません。

では、親として大切なことは何でしょうか。何よりもありのままの子どもをみていることだと思います。そしてその上で、子どもの個性を理解し、尊重することではないでしょうか。子どもが何を求めているのか、どんな特性をもっているのか、それをどう伸ばしていくのか。時に頭を悩ませながらも、そんなことを考え行動することが親の学びであり、その行為こそが子どもの幸せにつながっていきます。



岩倉市子育て親育ち推進会議では、子育て真っ最中の皆さんに少しでも役に立つものと考え、「**幸せの子育ち・親育ち～あせらず、ゆっくり、一歩いっぽ～**」を作成しました。この冊子は乳児期・幼児期の子どもを対象にして、この時期の子育てのポイントを分かりやすく説明しています。この時期の子育ては、親としてもたいへん手がかかり、戸惑うこともあると思います。しかし一方で、子どもの変化に驚かされ、成長に目を細めることもあるはずです。子育てを楽しみながら、親として少しずつ歩みを進めていただけたらと思います。

もくじ



はじめに	1
1 こんにちは赤ちゃん	3
《コラム 親同士がつながる楽しさ》	4
2 親と子のきずな	5
3 温かい家庭	6
4 「甘えさせる」と「甘やかす」	7
5 温かな言葉かけ	8
《コラム かかわる力 ～コミュニケーション能力を高めるために～》	9
6 「しつけ（躾）」とは	10
《トピック 早寝早起き朝ごはん》	11
7 「ほめる」と「しかる」	12
8 反抗？それは自我の現れ	13
9 「遊ぶこと」は「学ぶこと」	14
10 「自分でやる!」という気持ちを大切に	15
11 マナーやルール、 いっしょに守っていきましょう	16
《コラム スマホとのつきあい方》	17
12 子どもの心を支える親や家族	18
13 子どもは「育つ力」をもって生まれてくる	19
14 子どもの成長に不安がある時は	20
《トピック 食事から育つもの》	21
15 子どものサインに気づきましょう	22
16 親も学び、共に成長しましょう	23
★子どもの権利について考えよう	24
おわりに	25

1 こんにちは赤ちゃん

人間は、生まれてからおおよそ3歳までの間に人としての土台がつくられると言われます。

子どもの幸せを願って親が心がけたいことは……

- ♥ スキンシップ（しっかり抱きしめる）
- ♥ 温かいまなざし（目と目を合わせる・笑いかける）
- ♥ いっしょに遊ぶ
- ♥ 見守る
- ♥ 子どもを信じて待つ
- ♥ 生活リズムを整える（早寝 早起き 朝ごはん）

すると子どもは……

- * 自分が好きになり、自信がもてる
- * いろいろなことに前向きに取り組めるようになる
- * 困難なことも乗り越えようとする
- * 人を信じることができ、素直な心が育つ
- * 思春期などにつまずいても、立ち直る

「自分は大切にされている」と子どもが感じる
子育てを心がけましょう。



核家族で近くに縁者がいない。地域でつながる仲間もいない。夫は長時間勤務で家に帰るのが遅い。こうしたことから、母親が子育ての責任を一身に背負うような状況が見られます。プレッシャーを感じながらの子育てでは楽しくありませんね。

「地域で子育て」と言っても、地域のつながりが希薄になっている昨今の現実があり、なかなかうまくいきません。

そこで、今の自分にとって必要な関係を、自ら求めていくことを考えてはいかがでしょうか。

そのために、お母さんが自分から子育てのサークルや会に仲間を求めて入っていくとよいです



よう。岩倉市には、**子育て支援センターや生涯学習講座など様々なつながりの場が用意されています。**そこでつくられる人間関係が、昔でいう「地域で子育て」の関係になっていきます。自分が必要とする人間関係を自らつくっていくと、子育てが楽しくなりますよ。子育ては人と人とのつながりのある豊かな環境の中で、「みんなで子育て」を合言葉に進めていきたいものです。「子育ての孤立化」は何としても避けたいところです。

なお、岩倉市では、つながりを求めるお父さん・お母さんのために、情報一覧「いわくら子育てスポット」などが発行されています。ぜひ活用してください。

2 親と子のきずな

子どもは人の世話を受けて育つのを前提に生まれてきますが、親の十分な保護のもとで愛情を与えられると、子どもと親との間にきずなが生まれます。これを「愛着」と言います。このきずなができると、怖い時や不安な時にくっついて安心し、親は「安全基地」になります。そして、より密接な関係を築いていくことで、子どもは情緒豊かにすくすくと育っていきます。

愛着関係を築いた人に対して、子どもは微笑んだり、じっと見つめたり、泣いたり、ぐずったりします。また、後追いをしたり、抱きついたり、行動を目で追いかけたりします。親がこうした子どもの要求に応えることが、愛着関係を深めることになります。

乳児期における親と子のきずな（愛着）は、その後の人とのかかわりでいろいろと影響をもつゆえにとっても重要なのです。



3 温かい家庭

家族が支え合い、助け合い、許し合って生活することが子ども
の人間関係づくりにつながっていきます。家庭は小さな社会
と言われ、毎日の生活の中で子どもたちはたくさんのことを学
んでいます。親にとっては多忙な毎日かもしれませんが、一日
一日を大切に、子どもたちに丁寧に接していきましょう。

- ◆ 人から大切にされた子どもは
人を大切にすることができます
- ◆ 子どもが間違っただけをしたら
いけないことを伝えましょう
(怒鳴ることは恐怖心をあおるだけです)
- ◆ 「あせらず、ゆっくり、一歩いっほ」を心がけ
少しずつ継続していきましょう
- ◆ 親の後ろ姿で伝わるがあります



4 「甘えさせる」と「甘やかす」

子どもにとって大事なことは、お父さんやお母さんに受け入れられることです。甘えることもその表れのひとつです。甘えが満たされると、相手に対する信頼が深まります。また、安心感に包まれ、自信が芽生えてきます。「甘えさせる」と「甘やかす」の違いを知り、子育てに生かしましょう。

「甘えさせる」は 安心感につながる

- 子どものペースを尊重する
- スキンシップや遊んでほしいという要求を受け入れる
- 子どもがどうしてもできないことを手伝う

「甘やかす」は わがままのもとになる

- 大人の都合を優先する
- 「お金」や「物」の要求をそのまま受け入れる
- 子どもができることを大人がやってしまう

甘えていい時に十分甘えることができた人が、安心感を得て自立することができます。あくまでも子どものペースで甘えさせてあげましょう。



5 温かな言葉かけ

赤ちゃんは、「おなかすいたよ～」 「オムツが気持ち悪いよ～」などの言葉を話すことができません。すべて泣き声で表現します。そのような時、お父さん・お母さんは、「どうしたの？」 「おっぱい（ミルク）たくさん飲もうね」 「いいウンチでたね」などの言葉をかけてあげたいものです。赤ちゃんは自分にかけてられた温かい言葉を心の中にしみこませていきます。



赤ちゃんの「アーウー」の声や表情の変化に応じて、赤ちゃんと目を合わせながら「今日は天気がいいね」 「お風呂に入ろうね」などの言葉をかけてみましょう。このようなふだんの生活が赤ちゃんの心を安定させ、親子の絆を深めることにもなります。

**赤ちゃんには可能性がいっぱいです。
お父さん・お母さんの言葉は心の中に
蓄積されていきます。**

かかわる力

～コミュニケーション能力を高めるために～

コミュニケーション力は、自分の気持ちを伝えたり、相手の思いを理解したりと、社会の中で生きていくためにはとても重要な能力です。確かに豊かな人間関係を築く上で、他者とかかわる力、すなわちコミュニケーション能力は、幼少時から培っておきたい力です。そして、その能力を高めていくためには親子のコミュニケーションがしっかりとれることが大切です。

コミュニケーション能力の高い人は、「**幼少期に親がしっかりと聞き役になってくれた**」というケースが多いようです。どんなことでもしっかりと聞いてもらうことができるため、いろいろなことを自由に話すことができる。それにより自然と話し方を身に付けることができるのです。



なお、子どもにしっかり話をさせるためには、親が子どもの話をうまく引き出すことが必要です。子どもは親をよく見えています。自然と話を聞く姿勢を親から学び取って、その能力を身に付けていきます。



6 「しつけ(躾)」とは

「しつけ」という言葉は歴史的にはいろいろな意味で使われてきました。礼儀作法などを教えて身に付けさせる「しつけ」は「躾」という国字で表し、室町時代以降に使われるようになったと言われています。

乳幼児期の子どもは、まだ、望ましいこと、望ましくないことを自分で十分に判断することはできません。ですから子どもには、信頼できる大人が、子どもに分かるように示してあげることが必要です。

3歳ぐらいになると、子どもはトイレの練習などで、がまんしたり、頑張ったりと、自分の意志で行動することを覚えます。その時にお父さん・お母さんの「〇〇ちゃん、すごいね」「よくできたね」「お母さん（お父さん）うれしいな」など、自分を認めてくれる姿を見ると、「これからも頑張ろう!」と感じるようになり、その指示を守ろうとします。それが自尊心を育むだけでなく、大人との信頼関係の形成にもつながります。

「しつけ」はあせらずゆっくりと、子どもの成長に合わせてながら進めていきましょう。

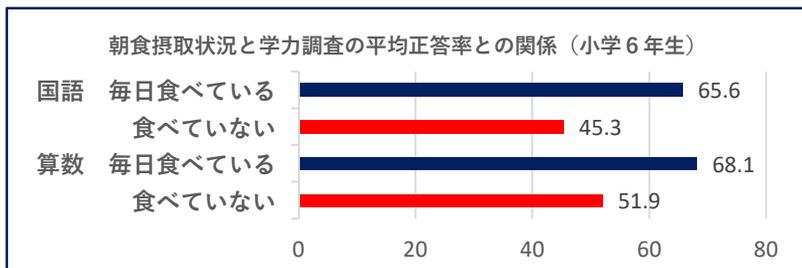


■ 早ね早おき よいリズム♪

人間の生体リズムは、脳が毎朝、太陽の光を視覚で認識することによって調整しています。これを毎日同じ時間に繰り返していると、脳が認識し、次第に自然な目覚めとともに、昼間に活発な「からだ」「あたま」「こころ」のはたらきが促されるようになります。

また、成長に欠かせないホルモンも、このリズムに沿って分泌されるようになります。寝不足や不規則な睡眠リズムは、こうした物質の分泌に影響を与えてしまい、心身の健康を損なう恐れがあると指摘されています。

■ 朝ごはんをしっかりとろう！



文部科学省：平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査より

朝食を食べることは、子どもにとっても、大人にとっても、大切なことです。上のグラフからもわかるように、毎日朝食を摂る子どもほど学力調査の得点が高い傾向にあります。朝食でブドウ糖をはじめとする様々な栄養素を補給して、午前中からしっかり活動できる状態をつくることが重要です。朝ごはんのメリットは、栄養補給だけではありません。よく噛んで食べることは、脳や消化器官を目覚めさせ、早寝早起きのリズムをつけることにつながります。

7 「ほめる」と「しかる」

子どもには、何でも自分でやりたがる時があります。少しでもできたら、「えらいね」「すごいね」とほめてあげましょう。ほめられることで、子どもには達成感や自信が生まれ、さらなるやる気があふれてきます。ですから、それができて当たり前のことや、ささいなことでも、ほめることがとても大切です。

それとは反対に、人に危害を加えたり、命にかかわる危ないことをしようとしたりした時などは、しかることが必要です。ただ、何もかもダメと人格を否定したり、いつまでもクドクドと言ったりすることはよくありません。

なぜしかられているのか、どうすればよいのかが分かるようにしかることが大事です。

やる気の連鎖

ほめる



意欲増大



次もがんばろう

■ しかるときのポイント

★あくまでもその行動をしかる

- 1 その場で、ただちに
- 2 簡単に、わかりやすく
- 3 その場だけ。あとに残さない
- 4 一貫性がある

■ 怒りを感じたら・・・

怒りを感じたら6秒待って怒りを静める。

すると幾分かは理性的になることができます。



クドクド、
クドクド...



8 反抗？ それは自我の現れ

おおよそ2歳前後から、子どもは親の言うことを聞かなくなったり、やってはいけないことを次々にしたりして親を困らせるようになります。子どもが床に座り込んで駄々をこねる姿に親が戸惑い、逃げ出したくなるのはよくあることです。これは第一反抗期（イヤイヤ期）と呼ばれるもので、子どもが自分の意志・意欲をもつようになってきたあかしなのです。

親の言うことを聞かないといっても、それは親の育て方が悪いのではなく、順調な子どもの自我の現れなのです。そんな状況にあって、**親が感情のまま怒りをぶつければ、多くの子どもは行動をよりエスカレートさせます。**親として感情を抑えることは難しいですが、子どもの思いにも寄り添い、落ち着いた態度で優しい言葉をかけてください。



9 「遊ぶこと」は「学ぶこと」

「ブランコのじゅんばん、ここにならぶんだよ」

「スコップ、いっしょにつかおう!」

子どもたちの遊び場ではよく見る光景です。

楽しいことを考えたり、みんなで協力したり、ルールをつくったり、友だちの話を聞いたり、互いに思いやったり……。遊びの中で自然に身に付いていくことはたくさんあります。

◆ 友だちから学ぶこと

友だちがやっているカッコイイこと、しゃべり方。子どもはすぐにまねをして、吸収していきます。「えっ、そんなことどこで覚えたの？」なんていうこともあります。



うちの子 大丈夫かな？



集団遊びの中では友だちとのトラブルもつきものです。

「ルールを守らない子がいる」「いじわるをされた」。こんな時には、子どもの思いを十分に聞いてあげてください。「うん、うん」「そうだね」と聞いてあげることで、しっかりと自分の気持ちを受け止めてもらったという安心感につながります。

10 「自分でやる!」という気持ちを大切に

「自分でやる!」と、2歳前後から自分の考えや思いをしっかりとつよようになってきます。言い出したら聞かない、なかなか手強い時期への突入です。しかし、子どもがやっているのを見ると、まだ自分ではうまくできないのもこの時期です。

◆ どうしてやりたがるの？

愛情を注がれ、自分が受け入れられることを経験した子どもの心は安心感でいっぱいになります。心が安定すると、「いろいろなことを自分でやってみたい!」という意欲が湧いてくるのです。そして、それが自立につながっていくのです。親としてはちょっと大変ですが、「大きくなる一歩を踏み出した」と思ってみ守りましょう。



自分でやってみると、うまくいかなかったり、不安に思ったりして、「安全基地」である親のもとに戻ってきます。そして、親の助けを借りてやり遂げると、自信が芽生え、また「やってみる!」と言うのです。子どもは、「安心」と「不安」を行ったり来たりしながら、自立へと向かっていくのです。

「自分でやる!」に付き合ってみる

靴下をはく、ボタンをはめる……。どれも時間のかかることばかりです。見ているだけで手を出したくなりますね。でも、ここはちょっと「がまん、がまん」。温かく見守ってあげてください。そして、自分の力でやろうと頑張ったことをほめてあげてください。

11 マナーやルール、いっしょに守っていきましょう

私たちの生活の中には、周りの人たちと気持ちよく過ごすためにたくさんの約束ごとがあります。それがマナーやルールです。以下に示した具体的なことから……

- 「おはようございます」「こんにちは」のあいさつ
- 電車に乗るときは、列に並んで順番に
- 公共施設（図書館など）では大きな声を出さない
- 道路を渡るときは横断歩道を
- ゴミのポイ捨てはしない 等々



これらのことはどうやって教えるのがよいのでしょうか？

「こうしようね」と声をかけながら、まずは私たち大人がお手本となってやってみましょう。まねをするのが大好きな子どもは、同じような行動をとっていきます。

マナーやルールは体で覚えて習慣にしていきたいですね。私たち大人にとっても、改めて確認するよい機会かもしれません。

マナーやルールがしっかり守れた時は……

「すごい！こんなことができるようになったんだ」と、少し大きなくらいにほめてあげてください。きっと子どもも自信たっぷりの顔ですよ。

スウェーデン生まれの精神科医アンデシュ・ハンセンさんの著書「スマホ脳」が世界的ベストセラーになっています。なぜそれほど読まれているのでしょうか。「スマホ」は現代人にとって大切なツールですが、同時に、大きな危険性をはらむものとして人々に認識されつつあるからでしょう。

今や小学生だけでなく、幼児までもがスマホを使いゲームをしたり、動画を視聴したりという場面を目にすることがあります。確かに、ぐずっている子どもをなだめる手段として有効なのかもしれません。しかし、それに頼り過ぎていると、子どもたちの健全な成長に大きな弊害をもたらすことになりそうです。実際、本を読み進めていくと、かなりショッキングなことが書かれています。特に不眠や運動不足に伴う心身の変化に言及されていますが、このことを指摘しているのは何もこの本に限ったことではありません。同じようなことは多くの育児書にも書かれています。

子どもにはよく食べ、よく遊び、よく眠ることが心身の成長を促すうえで大切です。スマホの楽しさ、面白さに引き込まれるのではなく、運動をしたり、本を読んだり、友だちと体を動かして遊んだりすることを大切にしたいですね。

街中で、スマホに目を落とす母親の後ろを幼い子どもがトボトボと歩いている姿を見かけることがあります。子どもは大人の姿を見て学びます。子どもたちの健全な成長のために、私たちは恥ずかしくない姿を子どもたちに示したいですね。

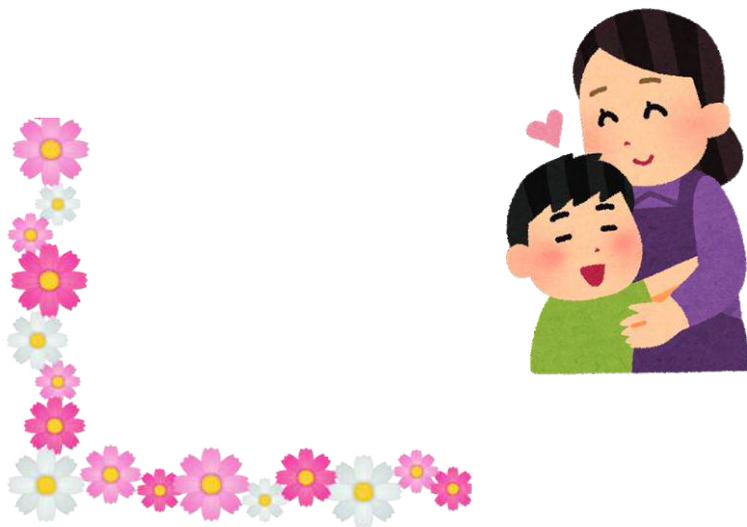


12 子どもの心を支える親や家族

子どもは誰でも、喜びだけでなくいろいろな壁にぶつかったり、つらく悲しい体験や思いを味わったりします。そんな時、心の支えとなるのが親や家族との信頼関係です。

子どもがどんな状況にあっても、親からまるごと受け入れられていると感じることが、大きな安心感を生み、子どものエネルギー源になります。

不安そうな時は「大丈夫よ」と優しく声をかけ、何か言いたそうな時は「どうしたの?」とじっくり耳を傾けてあげてください。このように自分を気にかけてくれる人が身近にいることは、子どもにとって心の支えになり、困難なことにもきちんと向き合うことができるようになります。



13 子どもは「育つ力」をもって生まれてくる

子どもは誰でも様々な可能性をもって生まれてきます。でも、親から「まだできないの?」「・・・しなさい!」などの言葉を度々かけられると、自信がなくなり、やる気がそがれ、せっかくの育つ力を発揮できません。

子どもの可能性を最大限に発揮させるために、「ありがとう」「よくがんばったね」「もう少しよ」などの言葉をかけ、親や周りの人がうまく手助けをしてあげましょう。温かい励ましの言葉をかけられた子どもは、何事にも進んで取り組み、驚くほどの力を発揮します。

他と比較せず、わが子の「育つ力」を信じましょう。



14 子どもの成長に不安がある時は

子育てをしているといろいろな不安を感じることがあります。子どもの成長のスピードには必ず個人差がありますが、お子さんに以下のような行動が見られる場合は、まずは専門家のアドバイスを受けましょう。



落ち着きがない

- 遊びが長続きしない
- 親と手をつないで歩かない
- どこかに一人で行ってしまう

特異な行動をする

- 頭をぶついたり、腕をかんだりする
- うつろな目で寝ころんでいる
- オウム返しをよくする

コミュニケーションがとりづらい

- 言葉の発達が遅い
- 一人遊びを好む
- 目が合わず、反応に乏しい

気になる行動がある

- かんしゃくがひどい
- わけもなく他の子をたたく
- 極端な人見知りをする

地域の支援体制（保健センター、子育て支援センターなど）が整備されていますので、ぜひ活用してください。



授乳期から「食」の大切さを意識し、豊かな食の体験を積み重ねていくことで、子どもは生涯にわたって健康で楽しい食生活を送ることができます。

以下の内容は、毎日の生活の中で子どもの気づきを大切に、どのように支援したらよいかをまとめたものです。

◆ 一緒に食べたい人がいる

「仲間やみんなで食べるとおいしい」と感じるのは、相手と気持ちが通じて心がワクワクしているからです。幼い頃からみんなで食べる楽しさを体験していると、人の気持ちがわかるようになり、思いやりの心が育ちます。

◆ 食事づくりや準備にかかわる

子どもの食事づくりやお手伝いは、生活技術を高めるばかりでなく、マナーや習慣を覚え、家族のコミュニケーションをはかるいいチャンスです。また、これらのことを通して、食べ物に興味と関心をもてる子どもに育ちます。



◆ 食事のリズムがもてる

思いっきり遊んだ後は、「おなかがすいた」が飛び出します。幼い頃からぐっすり眠って、たっぷり遊び、空腹を感じられるようになれば、次第に食欲や生活のリズムが健康にはとても大切であることがわかるようになります。

◆ 食事を味わって食べる

食事の楽しさは、おいしさを知ることから始まります。離乳食の頃からさまざまな味を経験し、いろいろな食品を見て、触ることで、食べようとする意欲が育ちます。

15 子どものサインに気づきましょう

子どもが頭痛・腹痛を訴えたり、ささいなことで激しく興奮したりするのは、子どもの「助けて!」のサインかもしれません。これらは子どもが不安な心・傷ついた心を外に向かって発信しているのです。

だから、そのような子どもに「わがママを言うな!」「がまんしなさい!」などの言葉をかけることは、いっそう子どもを苦しめ追い込むことにもなりかねません。



× 避けたい言葉

「早くしなさい!」「あとでね!」

「わがママ言うな!」 など



○ 温かな言葉

「どうしたの?」「どうしたいの?」

「何かあったの?」 など

ふだんから、子どもの様子をよく見て、変化が見られた時には「どうしたの?」と声をかけられる関係をつくっておくことが大切です。特に乳幼児期のスキンシップは、親子の信頼関係を形成するために効果的です。

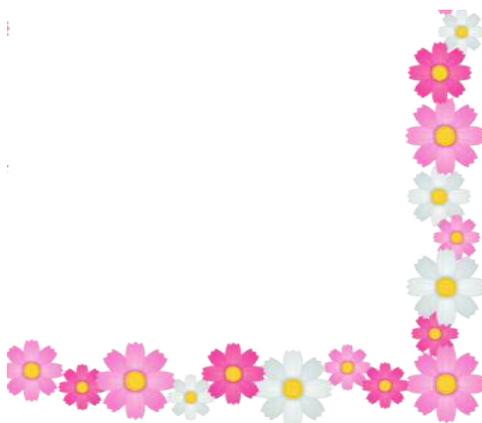


16 親も学び、共に成長しましょう

親・家庭は、子どもにとって常に帰ることのできる「心の港」と言われます。家庭が温かく安心できる場であれば、子どもは心を閉ざさず、自分の思いを素直に親に伝えることでしょう。

子どもの成長や自立には、温かく信頼し合える親子関係が求められます。この関係を築くには、子どもの「成長したい」という思いを大事にしながら、親もその時々で学び、共に育つことが大切です。そうすることで、さらに強い絆の親子関係ができていくのです。

親と子は、互いに教え、教えられる存在なのです。



子どもの権利について 考えよう



岩倉市子ども条例

すべての子どもは、未来の社会をつくっていくかけがえのない宝です。一人の人間として尊重され、健康に育ち生きていくために、すべての大人から愛され、大切にされなくてはなりません。

岩倉市では、子どもたちが将来にわたって安心して暮らすことができるまちづくりを進めるため、「岩倉市子ども条例」を平成21年1月1日に制定しました。

子どもたちに保障されている権利は・・・

- 子ども一人ひとりが尊重されること。（第4条）
- 遊び、学び、休息すること。（第5条）
- 夢を抱き、それに向かって挑戦すること。（第5条）
- あらゆる暴力や犯罪から心身ともに守られること。（第6条）
- 愛情と理解をもって育まれること。（第6条）
- 平和な環境で生活できること。（第6条）
- 自分の意見や考えを表明する機会が与えられること。（第7条）



毎年、11月20日は「岩倉市子どもの権利の日」です。その日を含む1週間は、子どもの権利を考える週間です。ぜひご家庭でも、家族みんなで考えてみましょう。

★「岩倉市子ども条例」の全文は、岩倉市ホームページに掲載しています。➡ <https://www.city.iwakura.aichi.jp/>

おわりに



「手塩にかけて子どもを育てる」という慣用句があります。これには、現代の子育てに関して考えさせられることが多々あります。例えば、おむすびを握る工程。これは至って簡単で、手に塩を付けてごはんを三角に形づけるだけのことです。だから、形だけを重んじるならば、三角形の鑄型にごはんを詰め込めばこと足ります。しかし、それではおむすび本来のおいしさを味わうことはできません。

おむすびづくりは、やはり、手に塩を付け、その塩がごはんに馴染むように、そして、形のよい三角形になるように、両手でごはんを包み込むようにしながら行うのが最良です。ごはんのかたまりが、ほどよい固さになるよう握る力を加減することや、はじめは細部にこだわらないで、おおまかに握るなど、何回も何回も繰り返しているのを見ていると、あたかも、手の動きとごはんとが対話しているようにもみえます。

そう思うと、「手塩にかけて子どもを育てる」は、子育てをおむすびづくりになぞらえることによって、子育て関係者に多くの教訓を伝えようとする先人の知恵を感じます。

本冊子は、大切な子どもを健全に育成するための知恵を簡潔に記したものです。何かひとつでも参考にさせていただければ幸いです。

岩倉市子育て親育ち推進会議委員長

松尾 昌之

《参考文献等》

- 婦人会報編集部編『ごめんなさいが言えますか』 (企画室)
明橋 大二著『子育てハッピーアドバイス1・2』 (1万年堂出版)
三神 廣子著『本が好きな子に育つために』 (萌文書林)
田中喜美子著『子どもの「がまん」を育てる本』 (PHP研究所)
ヘネシー・澄子著『子を愛せない母 母を拒否する子』 (学研)
文部科学省編集『家庭教育手帳』〈愛知県版〉 (文部科学省)
愛知県教育委員会編『あいちっこ「親の学び」学習プログラム』
(愛知県教育委員会)
文部科学省編集『できることから始めてみよう早ね早おき朝ごはん』
(文部科学省・早寝早起き朝ごはん全国協議会)
伸芽'Sクラブホームページ『コミュニケーション能力を高めるために』
アンデシュ・ハンセン『スマホ脳』 (新潮新書)
厚生労働省編集『楽しく食べる子どもに』 (厚生労働省)

「幸せの子育ち・親育ち」編集委員

★執筆担当

- | | |
|--------|-------------------------------|
| 松尾 昌之★ | 元愛知江南短期大学教授 〈推進会議委員長〉 |
| 浅野美穂子★ | 岩倉市子ども会連絡協議会役員 |
| 鵜飼 洋子★ | 岩倉市人権擁護委員 〈推進会議副委員長〉 |
| 大島 愛子★ | TA子育て支援士 |
| 松本 恵★ | 岩倉市子育てネットワーカー |
| 町田 竜介 | 岩倉市内幼稚園代表・岩倉幼稚園長 |
| 岩倉市役所 | 子育て支援課・健康課・学校教育課・福祉課
生涯学習課 |

幸せの子育ち・親育ち

令和4年10月1日改訂版発行

編集者 岩倉市子育て親育ち推進会議

発行所 岩倉市教育委員会生涯学習課

岩倉市栄町一丁目66番地岩倉市役所

TEL 0587-38-5819 (直通)



本誌をお読みいただき、何かお気づきのことやご意見があれば、生涯学習課までご連絡ください。

